

バシクル カント

人と野生生物の関わりを考える会 Vol.4

～命～



2012年10月発行

“バシクル” はアイヌ語で「カラス」
カント” は「空・天空」という意味です。
空を見上げたとき、カラスが飛んでいる…
そんな普通なことが幸せなのです。

一つの地球、一つの健康

～人と野生生物の関わりを考える会が目指すもの～

私たちが毎日食べている魚や野菜などの自然食材は、自然からの恵みです。これは、地球上の様々な生き物がバランスを保ちながら共に生きている（生物多様性）おかげ。私たち人間を含む様々な生き物が生態系で役割を果たすことで、私たちは、自然から様々な恩恵（生態系サービス）を受け続けることができます。

動物が生きていくために、植物、森は欠かせません。森のはっぱが地面に落ち、土に栄養を与えます。その栄養は、雨水とともに川から海へ流れ、植物性プランクトンやコンブなどの海藻を育てます。そして、動物性プランクトンを育て、小魚や貝などの生き物を育てます。さらに、サケやマグロなどの大きな魚を育てます。つまり、豊かな森が魚や貝などの生き物を育て、豊かな資源を産み出します。私たちは、森から、酸素や水の他にも、これらの自然からの恵みをいただいているわけです。

カラスは、人が出したゴミを荒らす悪者として嫌われることが多い動物です。このたぶん一番嫌われている最も身近な野生動物だって、私たちの暮らしを支えています。カラスは、森や街の虫や動物の死体などを食べる“地球のおそうじやさん”です。カラスがいなくなると、虫やネズミなどが増えすぎ、木が枯れ、森は不健康になってしまうでしょう。そう考えると…、カラスが森の健康を守っていると言っても言いすぎではありません。ヘビも嫌われ者ですが、ネズミを食べて数が増えすぎないように保つ役割があり、やはり森を守っています。

すると、すると… そうです！ カラスがいるおかげで、森の健康が守られ、私たちも大地、川や海から恵みをいただいているのです。カラスにおそわれると言いますが、カラスが人に攻撃するのは、繁殖期だけで、自分たちのヒナを守るためです。カラスに街を汚されると言いますが、私たちがゴミをちゃんと出せば荒らされません。むしろ、虫や生き物の死体などを食べ、街をきれいにしています。

自然環境は絶妙なバランスで健康に保たれています。ミミズ、オケラ、アメンボだって、カラス、ヘビ、毛虫だって、地球の健康に必要です。私たちは、特定の動物、特にハクチョウ、スズメやキツネなどの“かわいい”動物に餌を与え、やさしくした“つもり”になります。でも、そのえこひいきは、生態系のバランスを崩し、行動生態を変えてしまい、人とのトラブルや感染症を発生させるなど多くの問題を引き起こします。

野生動物は、人間に餌をもらわなくても、厳しい自然の中、自分で餌をとってたくましく生きています。野生動物も人も平和にくらすためには、私たちが野生動物と適度な“距離感”を保つことが必要です。大好きでもっと近づきたいのだけれども、そっとかげから温かく見守る…、のが本当の愛情ではないでしょうか？一番大切なのは、野生動物や自然への“感心・興味”だと思います。そして、自然について広く“知る”ことです。

昔からずっと身近で共に暮らしてきた生き物たちが健康で生き続けられる地球環境がある限り、私たち人間も健康に生き続けられるでしょう。私たちの身近な自然環境は、水（海）、空気（空）で地球全体とつながっています。そして、もう一つ、人間同士でもつながっています。私たちが身近な自然環境を大切にしていけば、人間同士で力を合わせれば、北海道から日本へ、日本から北極、南極、ホルネオ、アフリカへその想いは伝わっていくはずですよ。

みんなで、一つの地球、一つの健康を守って行きましょう！考える会で共に活動しましょう！

福井 大祐（人と野生生物の関わりを考える会）

人と野生動物の関わりを考える会

野生動物に餌をあげたことか ありまあか
そして 餌をもらった動物の その後のくらしを考えたことありまあか
私たちは、野生動物と人がくらすために どうあればよいかを
考える市民グループをつくりました。 (H24年6月)

基本趣旨 旭川を流れる 旭山新川における、カモ、イワナ等類への
餌やりや、スズメの大量死を一つのテーマに人と野生動物の
関わりについて考え行動ある市民組織!

目的 身近な自然をじから愛し、人と野生動物の お互いが
快適で幸せな自然環境と人間社会を創る。

構成 野鳥の会、自然保護団体、行政(旭川河川事務所
上川総合振興局) 旭川市旭山動物園

会員 小学生から大人まで 100名

活動 自然観察会、講演会および環境保全活動
こども向け学習会 1)出張授業 2)動物園訪問授業

幼児対象自然観察会・学習会
么児、小学生学年対象ハネルシアター訪問活動

対外講演 1)餌付けワークショップ 2)生涯学習フェア「まほびピア」
ハネル展出演 1)緑の回廊展 2)生涯学習フェア「まほびピア」

環境フォーラム 聴いて考えよう!「かたがえのないうの地球
つながっている一つの健康」の開催

会報誌 ハシクルカートの発行

考える会は、H23年度旭川市の市民の企画提案による協働まちづくり
事業に採択され助成を得て旭山動物園と連携して活動を行いました。

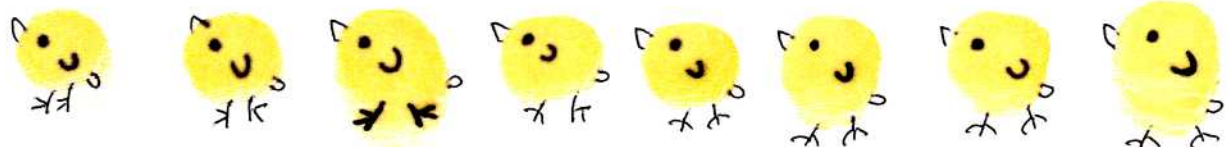
「人と野生動物がともに健康にくらす街づくり」

キーワードは 野生動物への関心と 距離感

みなさまの参加を じよりお待ちしております。 原田まど ^{連絡} _{下さい。}

E-mail/wakka2011@yahoo.co.jp

TEL 090-3893-4877



人が野生動物を気づかい離れてそと見守る



フェンス「生き物 思いやり線」

場所では牛朱別大橋と第一七永橋の間の河川敷にあります。

学習のためのパネルが貼ってあります。フェンスにはハクチョウやカモなどの野鳥の生態や人との関わりについて書かれています。自然観察会が行われています。

永山新川では、ハクチョウやカモなどの野鳥に対する餌やりが行われてきました。餌やりに伴い、残り餌や糞が河川を汚染し、またゴミの不法投棄が周囲の自然環境に悪影響を及ぼしています。さらに、野鳥から高病原性鳥インフルエンザなどの感染症が走り回りやすい状況にあり、集まった野鳥や周辺の養鶏場への影響が懸念されています。「人と野生動物の関わりを考える会」では、これまでに自然観察会や勉強会を重ね、野生動物の餌やりが引き起こす環境問題について考える会を立ち上げました。

その結果、日本財団の助成を得て、旭川河川事務所との協力を得て平成22年12月に永山新川にフェンス「生き物 思いやり線」を設置することができました。

目指すゴール

物理的な壁として餌やりが起きないようにすることだけでなく、心理的な境界線として餌やりを辛抱ある気持ちで育てることが目的です。自然認識を育てる普及空間にすることが原動力です。




H23年度 旭川市民の企画提案による 協働まちづくり事業 一年間の活動報告

人と野生生物の関わりを考える会は、旭山動物園と連携する

「人と野生生物が共に健康にくらせる街づくり」が採択され助成を得ることになり、その結果より幅広い活動の展開となりました。これより一年間の活動の報告をさせていただきます。

目的…人と野生生物がお互い快適で幸せな自然環境と人間社会を実現すること。

事業内容…自然観察会・講演会および環境保全活動 

- H23年9月17日 水生生物調査、河川清掃活動、自然観察会 講演会～旭山新川にて 40名参加
- H23年10月9日 自然観察会、勉強会、「生体物思いやり小泉」移設作業 展示パネル作成、設置～旭山新川にて 40名参加
- H24年2月25日 環境フォーラム「耳を聴いて、考えよう！かたがえのない→の地球 つながっている一つの健康」～旭川市民交流センターCoCoDe ホールにて 180名参加

…小学生対象学習会

- H23年8月23日 動物園と里子外における総合学習会(身近な野生生物) 東光小102名参加
- H24年2月22日 動物園と里子外における総合学習会(カモ、ハクモリウ)

…幼児、小・学級学年対象パネルシアター-方言問活動

- H23年7月20日 北海道教育大学付属旭川幼稚園 園児40名
- 9月30日 旭川市立北星保育所 園児83名
- 10月12日 旭川市立こまどり保育所 園児55名
- 10月26日 旭川市立新旭川保育所 園児96名
- 11月17日 旭川市立近文保育所 園児93名
- 12月7日 旭川市立神楽保育所 園児79名
- 12月8日 西御料地留守家庭児童会 児童37名
- H24年1月25日 宗孝女法人原成寺慈光園保育所 園児130名

…会報誌「10シクルカント」発行、配布

H23年7月 vol.1 12月 vol.2 H24年 vol.3

人と野生生物がともに健康にくらせる街づくり事業にあたり連携した旭山動物園とお互いの立場を理解し必要な情報の共有と意見交換を重ねるこれらの役割りを果たし信頼関係を築き上げながら活動を展開してきました。当会だけでは成しとげられなかった大変大きな幅広い活動となりました。

助成金をいただきました事に心より感謝すると、ともにこの活動を、通しましてたくさんの人との出会いがあり、一人一人の伝えたいという思いが、つながり大玉は実りのある活動となりました。この場をかりまして“ありがとうございます”





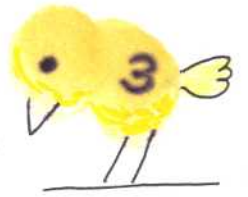
伝えたいというのめいから～(ほじまりました。
活動の様子です。



聴いて!! 考えよう!!

- パネルシアターで楽しく学ぼう 里生生物「カラスと人」をテーマに。

嫌れもののイメージがあるカラスですが、我々たちにとってとこも近くに共在しています。家畜への愛小青が深いことや、カラスの役割(森や自然環境)についても取り入れた内容となっています。園児たちも興味をもち理解を深めることができ、この活動を通じて命や自然を大切に思う心が、里生之身近なカラスや里生動物について関心をもつことにつながる機会となりました。♡♡



パネルシアターとは...

無地のパネルの上で、人形や背景を貼ったりはがしたりして、お話を展開していきます♪

- 小学生を対象に 体験型総合学習会 動物園と隣接した森で。

専門家による身近な里生生物の解説や里生生物の本来もつ自然の生態のあもしろさやあはらしさなど、実際に動物園ではカエルやハビを間近で観察したり、植物、動物の生態や森の役割(リ、リ、海、人とのつながり)について学びました。人と里生生物もそして地球環境も健康であり売けに、何が大切なのかということへの興味、関心をもつ総合的な普及効果の高い学習提供となりました。



かけがえのない一つの地球

つながっている一つの健康!

♡ これからも伝え売けていけます。命の光輝きを未来を担う子共たちへ♡





～新旭川公民館 ＊子育ての集い＊～



2012年7月7日、新旭川公民館「子育ての集い」においてパネルシアター「カラスと人」を講演しました。0歳～小学生と保護者の皆様にご観覧いただき、質問コーナーでは様々なご質問・疑問にお答えしながら和やかな時間をご一緒させていただきました。



七月九日(月)はれ泣
旭川市立東光小学校
一年生 〇生活科

ねらい・パネルシアターを通して命のつながりを理解する。
・生き物を大切にしようとする心を育てる。

パネルシアター観覧後、

〇メウイズや三択問題でカラスの生態や人との関わりについてふりかえりをしたり、人と野生動物の距離感・命の大切さについて考え、学習効果を高めました。

児童さんはクイズ効果音を合言葉に、意欲的にクイズ学習に取り組みました。

遠軽町主催 「カラス勉強会」

遠軽町が環境省から受託した地域生物多様性保全活動支援事業として実施されたものです。



2012年

8月4日

(土)

4月～7月はカラスの繁殖期です。この頃、カラスは卵やヒナを守るため、巣やヒナに近づく人間を威嚇する(頭を蹴る)ことがあり、遠軽町ではカラスの威嚇被害による巣の撤去の依頼が多いそうです。パネルシアター「カラスと人」を通して、少しでもカラスに対し、優しい気持ちになってもらえたら幸いです。

8/4スケジュールは
10:00～
学校法人北見カトリック学園
遠軽ひばり幼稚園

13:00～
学校法人浄人学園
遠軽中央幼稚園
でした。



カラスと共生 寸劇で学んだ 2幼稚園で 【遠軽】カラスとの共生などについて考える勉強会「カラスも地球のいきものだよ。仲良くするにはどうするの？」が4日、町内で開かれた「写真」。町の主催。遠軽ひばり幼稚園と遠軽中央幼稚園を会場に、旭川の市民団体「人と野生動物の関わりを考える会」が、寸劇などを交えた「カラスパネルシアター」を披露した。

2012年8月7日
北海道新聞
(遠軽・校別版)

さらに中央幼稚園では札幌カラス研究会の中村真樹子代表が「カラスってどんな鳥？知っているようで知らないカラスの話」と題して講演した。



活動報告 外来種ヒキガエルを捕まえて学ぶ会

2012年9月1日、主催/共催 人と野生生物の関わりを考える会

旭川市旭山動物園『外来種ヒキガエルを捕まえて学ぶ会を開催しました。』

今、函館市旭川市近郊ではアズマヒキガエル(北海道では外来生物の)分布が年々広がる化傾向にあり生態系への影響が懸念されています。

参加者はアズマヒキガエルの生態や捕獲調査の現状について学び、実際の捕獲に入ります。そして、外来種とその問題、人との関係、身近な自然について矢張りともに考えました。

WANTED

※ただし、決して悪者ではありません

～外来生物とその命～

アズマヒキガエル

体長 4～16cm
分布 本州、近畿付近から伊豆大島
北海道の一部
(函館、旭川周辺)



『外来生物』とは…

もともといなかった地に連れてこられた(やっけてしまった)生物のこと。
(もともと住んでいる生物のことは『在来生物』)

ヒキガエルをはじめ、様々な外来生物は人の手によって持ち込まれたのです。

何が問題???

外来生物が在来生物の住む場・食べ物・命を奪うなど生態系に大きな影響を与えています。

しかし、彼ら外来生物も見知らぬ地でたくましく一生懸命生きていこうとしているだけなのです。

ヒキガエルは安楽殺します

「安楽死を行う方々が命を奪う行為に心を痛めていることも心にためておいて下さい。」
考える会 旭山動物園飼育展示係 白木雪乃さんより



⚠ 飼っている外来生物を絶対に野外へ放さないで下さい



♣ アシリユニ日記～

私も実際に捕まえました。両手の中で「ク、ク、ク…」と鳴くヒキガエル。

「生きているよ」そこには確かに「1つの命」がありました。

彼らをそこに生息させてしまった私たち人間はこの命と真剣に向き合わなくてはいけない…と胸いっぱいになった会でした。

楽しく学ぼう!

野生生物の世界
への
招待状



言方問いたします



パネルシアターとは?

歌や物語にのって、布の貼った舞台の上に絵人形が
登場しお話を展開していく教材で、幼稚園・保育所・
小学校などでよく使用されています。



お話の内容～

音楽や手遊び寸劇を入れながら、私たちにとってとて
も身近で、自然環境の中で様々な役割を果たし
てくれていたり、人間が良くない関わり方をしてい
ることもある、野生生物の生態や人間との関わりに
ついて、旭川市旭山動物園 監修のもとお話しします。



クイズで学びを深めよう!

パネルシアターのお話後は、お話の内容や人間と
野生生物の関わりについて『〇×クイズ』や『三択
問題』をご希望に応じ行います。幼稚園・保育所年長～
大人まで♪ お楽しみいただけますよ。



どちらへでもうかがいます⇒

幼稚園・保育園・小学校(生活科・総合学習の授業など)、
子育て支援事業、福祉施設など…。
(日時・詳細についてはお問い合わせ下さい。)

みて・きいて・かじって



心を込めて…



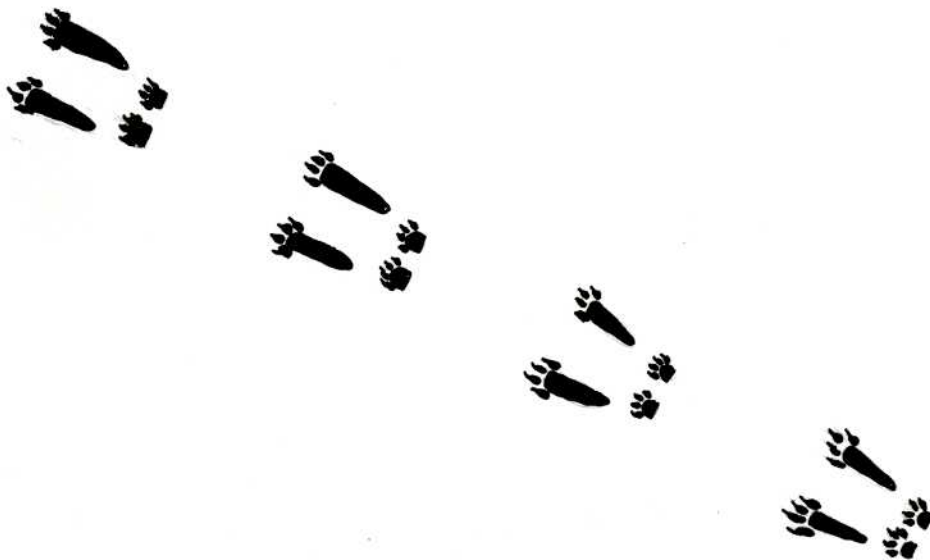
みなさんにパネルづくりのお手伝い
をしていただく場面も…
『参加型』のストーリーです

お問い合わせ先

はらた
<原田> 090-3893-4877

M-mail wanwan.reon-sache@
ezweb.ne.jp

P-mail wakka2011@yahoo.co.jp



人と野生生物のお互いが快適な自然環境を目指す市民団体

人と野生生物の関わりを考える会

<http://www5.city.asahikawa.hokkaido.jp/asahiyamazoo/zoo/torikumi/yaseiseibutu/yaseiseibutu.html>

【旭川市旭山動物園HP】 → 【旭山動物園の取組の紹介】 → 【人と野生生物の関わりを考える会】